

第2次対馬市子ども読書活動推進計画



令和4年4月

対馬市教育委員会

はじめに

読書をすることは、子どもにとって、知識の獲得とともに、感性を磨くことや、表現力・創造力を高めることにもつながり、自らの人生をつくっていくために必要な「生きる力」の育成に重要な役割を果たします。

そこで、「子どもの読書活動の推進に関する法律」や、国の「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」、県の「長崎県子ども読書活動推進計画」を基に、本市では、平成29年度から「対馬市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んでいます。

この度策定いたしました「第2次対馬市子ども読書活動推進計画」では、第1次計画期間中の成果と課題を踏まえ、「読書に親しめる環境づくり」、「読書習慣の形成」、「家庭・学校・地域等の連携体制構築と協働による施策の展開」の3つを基本方針としています。また、基本方針に沿った施策の柱や具体的な取組についても示しており、市教育委員会では、本計画に基づいて、引き続き、家庭や学校、地域などと連携しながら、読書活動を通じて、「豊かな心と生きる力を身に付けた“対馬っ子”」の育成を推進していきます。

結びに、本計画の策定にあたり、ご協力をいただきました関係者や市民の皆様
に厚くお礼を申し上げますとともに、これから5年間のご協力をお願いいたします。

令和4年4月

対馬市教育委員会

教育長 永留 和博

目 次

第1章 第2次計画策定の趣旨	P 1
1 計画の目的	
2 計画の位置づけ	
3 第2次計画の期間	
第2章 第1次計画における方策・取組の成果と課題	
1 家庭における読書活動の推進について	P 2
2 地域における読書活動の推進について	P 5
3 学校における読書活動の推進について	P 10
第3章 第2次計画の基本的な方針と取組	
1 基本理念	P 13
2 現状と課題	P 13
3 第2次計画の目標	P 14
4 読書活動推進の基本方針	P 14
5 施策の柱	P 14
6 計画の体系	P 15
第4章 第2次計画の具体的な取組	
1 読書に親しめる環境づくり	P 16
2 読書習慣の形成	P 19
3 家庭・学校・地域等の連携体制構築と協働による施策の展開	P 22

第1章 第2次計画策定の趣旨

1 計画の目的

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が定められ、読書活動によって、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けることができるよう、子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自ら進んで読書活動に親しむことができる環境の整備を推進することが求められています。

また、スマートフォンの普及やICTの急速な進歩などによって、電子書籍などこれまでの形態とは異なる読書活動が普及することや、小・中・高校生や大人の読書離れが進むことなどが予想され、新しい社会や環境に対応しつつ、発達段階に応じた取組を展開し、読書習慣を定着させることが重要となってきました。

そこで、第1次計画における成果と課題を踏まえ、「豊かな心と生きる力を身に付けた“対馬っ子”」を育成するため、家庭・地域・学校などが相互に連携して読書活動を推進していく指針として、「第2次対馬市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

2 計画の位置づけ

この計画は、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」及び「第四次長崎県子ども読書活動推進計画」を基本とし、本市における「第2次対馬市総合計画」「対馬市教育大綱」「第2期対馬市教育振興基本計画」との整合性を保ちながら、子どもの読書活動に関する基本的な施策の方向性や取組について示すものです。

3 第2次計画の期間

この計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

第2章 第1次計画における方策・取組の成果と課題

第1次計画期間（平成29年度～令和3年度）における子ども読書活動の推進のための方策及び取組について、「対馬市における子ども読書活動に関する調査」の調査結果などから、その成果等を検証したところ、以下のような課題が明らかになりました。

◎： 第1次計画の取組 ◆： 第1次計画の成果と課題

1 家庭における読書活動の推進について

子どもも大人も読書に親しみ、読書習慣の形成を図るため、家庭での読み聞かせや読書を推進しました。

①「家庭10分間読書運動」の推進

◎ 各家庭で10分間程度時間を設け、家族が一緒に本を読んだり読み聞かせをしたりする活動を「家庭10分間読書運動」と位置づけ、「ココロねっこ運動^{*1}」の一環として啓発に取り組みました。

◆ 家庭での本の読み聞かせについて、幼少期に家族から本を読んでもらったことがあると回答した割合は、前回調査と比較して、小学生9.5ポイント、中学生4.5ポイント上昇していることから、家庭での読書活動の推進に関する取組について、一定の評価ができると考えます。しかしながら、「家庭10分間読書運動」の認知度は小学生・中学生・高校生は3割以下、保護者についても4割以下となっていることは課題だと言えます。

[幼少期に家族から本を読んでもらったことがあると回答した割合]

	H28 ^{*2}	R3 ^{*3}
小学生	73%	82.5%
中学生	70%	74.5%
高校生	—	66.1%

[家庭10分間読書運動の認知度] ^{*3}

	小学生	中学生	高校生	保護者
R3	29.6%	11.8%	1.7%	32.5%

^{*1} 「ココロねっこ運動」：子どもの心の根っこを育てるために大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てようという長崎県独自の県民運動。

^{*2} 対馬市の子ども読書活動状況に関するアンケート結果から（H28市生涯学習課実施）

^{*3} 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から（R3市生涯学習課実施）

② 読書を楽しむ環境づくり

- ◎ C A T Vや広報誌などを活用し、つしま図書館で購入した図書などについて積極的に情報発信を行い、家庭での読書を楽しむ環境づくりにつながるよう努めました。

③ 地域活動への参加（図書館・図書室の積極的な利用）

- ◎ つしま図書館において、読書関連イベントを実施し、図書館や図書室の積極的な利用の促進に取り組みました。

[イベントの実施状況]

年度	イベント名	内容・実績
H29	つしま図書館 11周年イベント (10月21日)	DVD上映会、絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、対馬南警察署防犯教室、対馬野生生物保護センターツシマヤマネコ講話、マジックショーを実施。 参加者：172名
H30	親子読書の集い in 対馬 (10月27日)	地元ボランティアによる読み聞かせ、絵本作家宮西達也氏による「絵本ライブ」を実施。 参加者：172名。
H31 (R1)	つしま図書館 13周年イベント (10月19日)	DVD上映会、絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、対馬南警察署防犯教室、対馬野生生物保護センターツシマヤマネコ講話、マジックショーを実施。 参加者：111名
R2	図書館でウォーリーをさがそう！イベント (10月6日～11月8日)	図書館内に「ウォーリーをさがせ！」に登場するキャラクターパネルを配置し、参加者に探してもらおうアクティビティを実施。 延べ参加者数：600人
	つしま図書館 14周年イベント	新型コロナウイルスの影響により中止
R3	図書館まつり	新型コロナウイルスの影響により中止

④ ブックスタート事業の推進

◎ ブックスタート事業として実施はしていないが、生後1か月の新生児の健診に保健師が家庭を訪問する際に、企業から無料提供を受けた絵本を各家庭に1冊ずつ配布しました。

◆ 「ブックスタート」の認知度は低い状況であり、課題があると言えます。

[ブックスタートの認知度] *₃

	R3
保護者	9.4%

*₃ 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から（R3市生涯学習課実施）

2 地域における読書活動の推進について

地域において、子どもの読書活動の拠点となる図書館の整備・充実などに取り組み、子どもがより本に親しめる環境づくりに努めました。

① 図書館・図書室の児童図書の充実

◎ それぞれの子どもの発達段階における興味関心やニーズ等に応じた購入を行い、図書の充実を図りました。

[図書の購入状況] (冊)

	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3* ₄	合計
児童 図書	1,111	851	903	926	839	4,630
一般 図書	976	886	857	1,120	879	4,718
合計	2,087	1,737	1,760	2,046	1,718	9,348

◆ 図書購入冊数は、平成29年度から5年間の年度平均で、児童図書約930冊、一般図書約940冊、児童図書・一般図書合計約1,870冊となっており、図書の充実について、一定の評価ができると思います。

② 図書館の購入図書情報の提供（広報誌・CATV等の活用）

◎ 広報つしまやCATVの番組などを活用し、市民へ購入図書の情報提供を行いました。

[情報提供の状況]

情報提供ツール	内容	情報提供の頻度
広報つしま	新規購入した図書の中からお勧めの4冊を紙面で紹介	月1回
CATV	新規購入した図書の中からお勧めの12冊を番組内で紹介	月1回
図書館だより	新規購入した図書の中からお勧めの4冊を紙面で紹介	月1回

*₄R3の購入図書冊数については、R4年2月末時点での実績

- ③ 図書館及び図書室の環境整備の充実
- ④ 公民館図書サービスの拡充
- ⑤ 図書館システムの充実

- ◎ 図書館及び図書室の利用者が「また利用したい」と感じ、継続的な施設の利用につながるよう、必要な環境の整備に努めました。
- ◎ つしま図書館の職員や各地区公民館の図書担当者の連絡会議を実施し、情報交換を行うことで、図書サービスの向上のための共通認識を深めました。
- ◎ 図書館システムの更新（令和2年度）を行い、市民が読みたい本をよりスムーズに検索できる環境を整備しました。
- ◆ 図書館・図書室の環境整備については、ソフト面・ハード面双方で、市民のニーズ等に応じた整備に取り組んできましたが、つしま図書館・各地区公民館図書室ともに子どもたちの利用頻度が高いとは言えない状況であり、次の点が課題として考えられます。
 - ▶ つしま図書館の認知度は、小学生・中学生・高校生ともに8割を超えている状況である一方、つしま図書館を月1回以上利用する小学生は約3割、中学生・高校生は約1割となっています。このことから、図書館に対する認知度は高いものの、実際の利用につながっていないことが課題だと言えます。

[つしま図書館の認知度] *3

	つしま図書館を知っている	つしま図書館を知らない
小学生	82.1%	17.9%
中学生	87.3%	12.7%
高校生	82.5%	17.5%

[つしま図書館の利用頻度] *3

	ほぼ毎日	週1回程度	月1回程度	ほとんど行かない	行かない
小学生	0.3%	10.4%	23.4%	39.0%	26.9%
中学生	0%	0.8%	10.2%	50.4%	38.6%
高校生	0.7%	0.7%	9.3%	47.1%	42.1%

- ▶ つしま図書館の利用頻度で「ほとんど行かない」「行かない」と回答した主な理由には、「図書館に行く時間がない」「図書館が近くにない」が挙げられており、時間的・地理的制約が課題だと言えます。

*3 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から（R3市生涯学習課実施）

- 各地区公民館図書室の認知度は、小学生・中学生・高校生ともに4割以下であり、図書室を月1回以上利用する小学生は約3割、中学生・高校生は1割に満たない状況となっています。このことから、各地区公民館図書室の認知度の低さに起因して、利用頻度が低くなっていると考えられます。

[各地区公民館図書室の認知度] *₃

	各地区公民館図書室を知っている	各地区公民館図書室を知らない
小学生	33.5%	66.5%
中学生	37.1%	62.9%
高校生	39.6%	60.4%

[各地区公民館図書室の利用頻度] *₃

	ほぼ毎日	週1回程度	月1回程度	ほとんど行かない	行かない
小学生	1.5%	2.3%	21.8%	33.3%	41.0%
中学生	0%	0.6%	3.1%	37.0%	59.3%
高校生	0%	0%	0%	31.3%	68.7%

⑥ 学校移動図書の推進

◎ 学校移動図書を小学校14校、中学校1校で実施しました。

- ◆ 市内の小・中学校において、学校移動図書が利用されているものの、使用する図書を平成28年度以降購入できておらず、図書の劣化がみられます。今後、継続して学校移動図書を実施するため、学校移動図書用の図書を更新するとともに、内容の充実を図る必要があります。

*₃ 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から（R3市生涯学習課実施）

⑦ 読書啓発活動の推進

◎ つしま図書館において、読書関連イベントを実施し、読書の啓発活動に取り組みました。※イベントの実施状況は3ページに掲載

◆ 読書啓発活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により、つしま図書館の閉館期間があったことや図書関連イベントが中止となったことが影響し、令和2年度以降、つしま図書館への入館者数や図書の貸出冊数が減少している状況です。図書館及び各地区公民館図書室の環境整備と併せて、「子ども読書の日^{*5}」「読書週間^{*6}」の周知や図書関連イベントの開催などによって、効果的な読書啓発活動を展開することが必要だと考えます。

[つしま図書館の入館者数] (人)

	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3 ^{*7}
入館者数	64,212	65,741	57,155	39,450	40,704

[図書の貸出冊数] (冊)

	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3 ^{*7}
児童図書	30,498	33,698	33,674	23,267	26,552
一般図書	21,241	23,904	23,393	16,274	17,341

[子ども読書の日^{*3}の認知度] ^{*3}

	知っている	聞いたことはあるが、 詳しく知らない	知らない
小学生	14.7%	24.0%	61.3%
中学生	12.4%	30.5%	57.0%
高校生	6.4%	15.8%	77.8%
保護者	7.9%	16.8%	75.3%

^{*3} 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から (R3市生涯学習課実施)

^{*5} 子ども読書の日：毎年4月23日

^{*6} 読書週間：毎年10月27日～11月9日

^{*7} R3の入館者数及び貸出図書冊数はR4年2月末時点での実績

[読書週間の認知度] *₃

	知っている	聞いたことはあるが、 詳しく知らない	知らない
小学生	45.2%	22.3%	32.5%
中学生	47.3%	29.2%	23.5%
高校生	22.2%	32.2%	45.6%
保護者	28.3%	28.6%	43.1%

⑧ 図書ボランティアの養成

- ◎ 市内の図書ボランティア同士の交流や情報交換を通して、学び合うことができる図書ボランティアのネットワーク構築を目指し、意見交換会を実施しました。

⑨ 読書グループや図書ボランティアとの連携

- ◎ つしま図書館では、学校や読書普及に関するボランティアグループに対して、図書・読み聞かせ用の大型絵本等について、貸出可能冊数50冊、貸出期間1か月間となる団体カードを発行しました。それによって、市内の読書グループや図書ボランティアの読書活動の普及促進につながりました。

[団体貸出の状況]

	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3* ₈
貸出団体数 (延べ)	137 団体	149 団体	107 団体	121 団体	131 団体
貸出図書冊数	1,846 冊	1,643 冊	1,637 冊	2,020 冊	1,892 冊

- ◆ 読書グループ、図書ボランティアとの連携については、団体貸出によって、読書グループや図書ボランティアの活動を支援できた点は一定の評価ができると考えます。しかし、連携した取組には至っていない状況であるため、連携に必要なネットワーク等の構築が必要であると考えます。
- ◆ 図書ボランティアの養成については、関心があっても、実際の活動には至っていない保護者が一定数いることから、図書ボランティアの拡大と養成という点でも、ネットワーク等の構築が必要であると考えます。

*₃ 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から (R3市生涯学習課実施)

*₈ R3の貸出団体数及び貸出図書冊数はR4年2月末時点での実績

3 学校における子どもの読書活動の推進について

学校において、読書に親しむ態度形成と読書習慣が身に付くような取組を進めるとともに、学校図書館が子どもの豊かな心を育む場となるよう環境の整備を図ります。

① 学校図書 の 充実

- ◎ 学校図書蔵書冊数は直近の5年間で、小学校3,715冊、中学校653冊減少している。これは平成29年度から統廃合によって、小学校2校、中学校1校が減少したことが主な要因として考えられます。また、学校図書は、5年間で1校あたり約100冊程度の新規購入を行っており、子どもの発達段階やニーズ等に応じた図書の充実に取り組みました。

[学校図書蔵書冊数]*₉ (冊)

	小学校	中学校	備 考
H29 調査 (H28 年度末時点)	97,736	63,037	調査対象校 小学校 20、中学校 13
R3 調査 (R2 年度末時点)	94,021	62,384	調査対象校 小学校 18、中学校 12

② 朝の10分間読書の推進

- ◎ 「朝の読書」を中心に、実態に応じた「全校一斉読書活動」の推進に努めました。

[朝の読書をはじめとした全校一斉読書活動の実施状況について]*₉

	毎日	週4日	週3日	週2日	週1日	実施なし
小学校	0%	11.1% (2校)	16.7% (3校)	22.2% (4校)	38.9% (7校)	11.1% (2校)
中学校	41.7% (5校)	33.3% (4校)	0%	16.7% (2校)	0%	8.3% (1校)

*₉ R3 学校運営調査による

③ 図書ボランティアとの連携

◎図書室の環境整備など、学校に応じた読書活動の推進を図るため、図書ボランティアと連携に努めました。

[図書ボランティアの活動について]*₉

	週1回以上	月に数回	行事や要請がある時	ない
小学校	0%	33.3% (6校)	33.3% (6校)	33.3% (6校)
中学校	0%	0%	0%	100% (12校)

④ 不読者率0%の達成

◎ 1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合（不読者率）の0%の達成に向けて、「朝の読書」を中心に、実態に応じた「全校一斉読書活動」の推進に努めました。

◆ 週1回以上読書する習慣がある子どもは、小学生約8割、中学生約7割、高校生約5割となっており、年齢と反比例して、読書習慣がある子どもの割合が下がっています。読書習慣がない中学生・高校生をいかに減少させるかが課題と言えます。

[読書習慣について]*₃

	小学生	中学生	高校生
ほぼ毎日	42.6%	40.9%	35.3%
週1回程度	42.0%	30.2%	14.7%
月1回程度	6.7%	8.9%	14.7%
ほとんど読まない	6.8%	13.6%	18.8%
本を読まない	1.9%	6.4%	16.5%

*₃ 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から（R3市生涯学習課実施）

[最近1か月間の読書冊数について]*₃

	小学生	中学生	高校生
0冊	1.3%	3.7%	7.5%
1～3冊	26.5%	65.1%	79.4%
4～6冊	26.2%	17.9%	6.5%
7～9冊	15.3%	8.2%	2.8%
10冊以上	30.8%	5.1%	3.7%

※読書習慣が月1回程度以上あると回答した者が対象

⑤ 学校図書館支援員の充足と資質の向上

- ◎ 学校図書館支援員の研修を年間2回実施し、資質の向上に取り組みました。図書館支援員の配置については、地域の人材を活用し、学校の地理的要因等を考慮し、適正な配置に努めました。

[学校図書館支援員の配置校]

	小学校	中学校	備考
H3	18	11	学校数 小学校 18、中学校 12

※学校図書支援員数 14 名

*₃ 対馬市における子ども読書活動に関する調査結果から（R3市生涯学習課実施）

第3章 第2次計画の基本的な方針と取組

1 基本理念

読書活動を通じて、豊かな心や生きる力を身に付けた“対馬っ子”を育成するため、あらゆる機会や場所において、自主的に読書活動を行うことができる島づくりを推進します。

2 現状と課題

第1次計画の評価・分析などによって、次のような現状と課題が明らかとなりました。

○ 公立図書館・公民館図書室・学校図書室の利用促進

本市においては、各学校の図書室はもとより、公立図書館を1か所、各地区の公民館に図書室を5か所設置しております。しかし、学校図書室においては、年齢が上がるにつれて、「ほとんど行かない」「行かない」子どもの割合が増加しています。また、公立図書館や各地区の公民館図書室に「ほとんど行かない」「行かない」と回答した子どもの割合も高く、図書関連施設の利用促進を図る必要があります。

○ 中学生期以降の読書離れ

国の計画では、高校生の読書離れが課題として挙げられています。本市においても、高週1回以上読書する習慣がある子どもの割合は、小学生約8割、中学生約7割、高校生約5割となっており、年齢と反比例して読書離れが進んでいることが明らかとなりました。

○ 家庭・学校・地域等の連携の必要性

これまで、家庭・学校・地域等がそれぞれで読書活動の推進に取り組み、一定の成果があがっています。「読書関係者の資質向上と連携」が県の計画の重点課題にも挙げられており、本市においても、家庭・学校・地域等の読書関係者の連携が必要であると考えられます。

3 第2次計画の目標

本市における子ども読書活動の現状と課題を受け、第2次計画の目標を次のとおり設定します。

- ① 対馬っ子が様々な方法で自由に読書に親しめる島を目指します。
- ② 対馬っ子が読書習慣を身に付け、生涯にわたって学び続ける島を目指します。
- ③ 家庭・学校・地域等が協働し、対馬っ子の成長を支える島を目指します。

4 読書活動推進の基本方針

① 読書に親しめる環境づくり

読書に親しむ機会を増やすため、読書環境の充実を図ります。

② 読書習慣の形成

成長段階や発達段階に応じた取組を展開し、読書習慣の形成を図ります。

③ 家庭・学校・地域等の連携体制構築と協働による施策の展開

家庭・学校・地域等が協働するための連携体制を構築することで、島全体が一体となった読書活動の活性化を図ります。

5 施策の柱

① 読書に親しめる環境づくり

- (1) つしま図書館・公民館図書室の利用促進
- (2) 学校図書室の環境整備支援の推進

② 読書習慣の形成

- (1) 地域における読書習慣の形成につながる普及啓発活動の推進
- (2) 学校における成長段階に応じた読書指導、読書活動の推進
- (3) 家庭での読書活動の推進

③ 家庭・学校・地域等の連携体制構築と協働による施策の展開

- (1) 家庭・学校・地域等の連携につながるネットワークづくり

6 計画の体系

<目指す姿>

あらゆる機会や場所において、自主的に読書活動を行うことができる島



<第2次計画の目標（令和4年度～令和8年度の5年間）>

- ① 対馬っ子が様々な方法で自由に読書に親しめる島を目指します。
- ② 対馬っ子が読書習慣を身に付け、生涯にわたって学び続ける島を目指します。
- ③ 家庭・学校・地域等が協働し、対馬っ子の成長を支える島を目指します。

施策の柱と具体的な取組

	家庭	地域	学校等
施策の柱	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者 ・家族 	<ul style="list-style-type: none"> ・市 ・ボランティア団体 ・公立図書館 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所等 ・小・中学校 ・高等学校 等
読書に親しめる環境づくり		つしま図書館・公民館図書室の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・資料や施設の整備 ・イベントや広報の実施 	学校図書室の環境整備支援の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校移動図書の実施 ・学校図書支援員の配置、資質向上
読書習慣の形成	家庭での読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・家族10分間読書運動の推進 ・幼少期から読書に親しむ機会づくり ・読書活動の重要性の啓発 		
	地域における読書習慣形成につながる普及啓発活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの実施 ・県と連携した普及啓発 		学校における成長段階に応じた読書指導、読書活動推進 <ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉読書活動の推進
家庭・学校・地域等の連携体制構築と協働による施策の展開	家庭・学校・地域等の連携につながるネットワークづくり <ul style="list-style-type: none"> ・読書関係者の交流や資質向上につながる研修会等の開催 ・図書ボランティア等のネットワークづくり 		



<現状と課題>

- 公立図書館・公民館図書室・学校図書室の利用促進の必要性
- 中学生期以降の読書離れ
- 家庭・学校・地域等の連携の必要性

第4章 第2次計画の具体的な取組

1 読書に親しめる環境づくり

① つしま図書館・各地区公民館図書室の利用促進

○ つしま図書館・各地区公民館図書室の資料の整備

利用者のニーズ等を捉えた図書等の資料整備に取り組み、施設の利用促進を図ります。

<具体的な取組>

- ・時勢や利用者ニーズの把握に基づいた図書の購入

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	図書購入冊数の維持	年度平均 1,800 冊購入	年度平均 1,870 冊
2	図書貸出冊数の増加	年度平均 55,000 冊 (10%増)	年度平均 49,968 冊

○ 利用しやすい施設整備の実施

様々な利用者のニーズに応じて、ソフト面・ハード面の双方で施設の整備に取り組み、施設の利用促進を図ります。

<具体的な取組>

- ・図書館及び各地区公民館図書室の環境整備
- ・図書システムの充実
- ・図書館職員及び各地区公民館図書担当の情報交換会や研修会による資質向上

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	つしま図書館の入館者数増加	年度平均 5,900 人 (10%増)	年度平均 5,345 人
2	図書貸出冊数の増加	年度平均 55,000 冊 (10%増)	年度平均 49,968 冊

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
3	つしま図書館の利用頻度	月1回以上利用する割合増加 小：50% 中：30% 高：30%	小：34.1% 中：11.0% 高：10.7%
4	各地区公民館図書室の認知度	小：50% 中：60% 高：60%	小：33.5% 中：37.1% 高：39.6%
5	各地区公民館図書室の利用頻度	月1回以上利用する割合増加 小：50% 中：25% 高：25%	小：25.6% 中：3.7% 高：0%

○ 施設の利用促進につながるイベントや広報活動の実施

つしま図書館や各地区公民館図書室の利用につながるイベントの実施や効果的な広報活動に取り組み、施設の利用促進を図ります。

<具体的な取組>

- ・つしま図書館の日（10月第3土曜日）でのイベントの開催
- ・つしま図書館・各地区公民館図書室への社会科見学・職場体験等の受け入れ
- ・図書館・各地区公民館に関する効果的な広報活動（図書情報、利用方法等）

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	つしま図書館の日イベントの参加数増加	年度平均 170 人 (10%増)	年度平均 152 人
2	社会科見学・職場体験の受入数維持	受入学校数の年度平均 つしま図書館：8校 各地区公民館図書室：1校	年度平均 つしま図書館：8校 各地区公民館図書室：1校
3	情報発信ツールの種類増加と既存情報発信回数の維持	情報発信ツール：4種類 (1増) 広報つしま：月1回 CATV：月1回 図書館だより：月1回	情報発信ツール：3種類 広報つしま：月1回 CATV：月1回 図書館だより：月1回
4	図書貸出冊数の増加	年度平均 55,000 冊 (10%増)	年度平均 49,968 冊

② 学校図書室の環境整備支援の推進

○ 学校移動図書用図書の整備と実情に応じた有効活用

学校移動図書用の図書を整備するとともに、学校の実情に応じた学校移動図書の活用を推進することで、学校図書室の環境整備の支援に取り組みます。

<具体的な取組>

- ・学校移動図書用の図書の購入
- ・学校の実情に応じた学校移動図書の有効活用の推進

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	学校移動図書用の図書の更新	現在使用している学校移動図書の2/3を更新	購入実績なし
2	学校移動図書活用校数の維持	小：14校 中：1校	小：14校 中：1校

○ 学校図書支援員の配置と資質の向上

地域の人材を活用し、学校の地理的要因等を考慮しながら、学校図書支援員の適正な配置に取り組みます。また、学校図書支援員を対象とした研修会等を開催し、資質向上に取り組みます。

<具体的な取組>

- ・学校図書支援員の適正配置
- ・研修会等による学校図書支援員の資質向上

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	市内全ての小・中学校への学校図書支援員配置	市内小・中学校への学校図書支援員配置率100%	市内小・中学校への学校図書支援員配置率96.7%
2	学校図書支援員対象の研修会の開催回数維持	年2回開催	年2回開催

2 読書習慣の形成

① 読書習慣の形成につながる普及啓発活動の推進

○ 読書に親しむきっかけとなるイベント等の実施

読書に親しむきっかけとなるイベント等を実施し、読書習慣形成に向けた普及啓発活動を推進します。

<具体的な取組>

- ・つしま図書館の日（10月第3土曜日）でのイベントの開催 ※再掲
- ・地域子ども教室における本の読み聞かせ等の実施

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	つしま図書館の日イベントの参加数増加	年度平均 170 人 (10%増)	年度平均 152 人
2	地域子ども教室での本の読み聞かせ実施率維持	実施率 60%以上	実施率 67.7% (2教室/3教室)
3	週 1 回以上読書する習慣がある子どもの割合増加	週 1 回以上の読書習慣がある割合 小：90% 中：80% 高：60%	小：84.6% 中：71.1% 高：50.0%

○ 県及び県立図書館と連携した普及啓発の実施

県及び県立図書館と連携し、読書習慣形成に向けた普及啓発活動を推進します。

<具体的な取組>

- ・「長崎県の子どもにすすめる本」の広報

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	「長崎県の子どもにすすめる本」の周知実施回数	年 1 回以上	実績なし

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
2	週 1 回以上読書する習慣がある子どもの割合増加	週 1 回以上の読書習慣がある割合 小：90% 中：80% 高：60%	小：84.6% 中：71.1% 高：50.0%

② 学校における成長段階に応じた読書指導、読書活動の推進

○ 朝読書をはじめとした「全校一斉読書活動」の推進

学校の実態に応じて、「全校一斉読書活動」などの実施を推進することで、読書習慣の形成に取り組みます。

<具体的な取組>

- ・「全校一斉読書活動」の実施推進

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	全校一斉読書活動の実施率維持	市内小・中・高等学校における実施率 90%	市内小・中学校における実施率 90%
2	週 1 回以上読書する習慣がある子どもの割合増加	週 1 回以上の読書習慣がある割合 小：90% 中：80% 高：60%	小：84.6% 中：71.1% 高：50.0%

③ 家庭での読書活動の推進

○ 「家族 10 分間読書運動」の推進

「家族 10 分間読書運動」を県と連携して推進し、読書習慣の形成に取り組みます。

<具体的な取組>

- ・家族 10 分間読書運動の普及啓発

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	家族10分間読書運動の認知度	家族10分間読書の認知度 小：50% 中：50% 高：50% 保護者：50%	家庭10分間読書の認知度 小：29.6% 中：11.8% 高：1.7% 保護者：32.5%
2	幼少期に家族から本を読んでもらったことがある子どもの割合増加	小：90% 中：80% 高：80%	小：82.5% 中：74.5% 高：66.1%

○ 乳幼児期から読書に親しむ機会づくり

ブックスタートなどの活動を通して、乳幼児期から読書に親しむ機会をつくり、読書習慣の形成に取り組みます。

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	幼少期に家族から本を読んでもらったことがある子どもの割合増加	小：90% 中：80% 高：80%	小：82.5% 中：74.5% 高：66.1%

○ 家庭で行う読書活動の重要性の啓発

家庭で行う読書活動の重要性の啓発に取り組みます。

<具体的な取組>

・家庭で行う読書活動の重要性の啓発

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	「子どもの読書活動は重要だ」と考える保護者の割合維持	99.0%	99.2%

3 家庭・学校・地域等の連携体制構築と協働による施策の展開

① 家庭・学校・地域等の連携につながるネットワークづくり

○ 読書関係者の交流や資質向上につながる研修会等の開催

読書関係者の交流や資質向上につながる研修会を開催することで、連携体制の構築を推進します。

<具体的な取組>

- ・読書関係者の交流会・情報交換会・研修会等の開催

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	2つ以上の異なる立場(学校と地域、地域と家庭など)の関係者が集まる研修会等の実施回数	年1回以上	実績なし

○ 図書ボランティア等のネットワークづくり

市内で活動する図書ボランティア等のネットワークづくりに取り組み、図書ボランティア活動の活性化に取り組みます。

<具体的な取組>

- ・図書ボランティア等のネットワーク構築

<目標と評価>

評価項目	評価指標	目標値	H29～R3 実績値
1	図書ボランティア等のネットワークの組織化	対馬市図書ボランティアネットワーク(仮称)を組織する。	ネットワーク化に関する意見交換会を実施。